

## 8) 県内の特徴的な動き(平成26年度)

### (1) 乳用後継牛の県内確保の取組

県では、酪農経営における乳用後継牛を確保するため、性判別精液の活用や哺育育成施設の整備に支援しました。

また、将来酪農ヘルパーや牛群検定に携わる人材を育成するため、農業高校や畜産大学に対し、人材確保を呼びかけています。



県営農大校生の酪農研修

### (2) 獣医師確保対策の実施

県では、平成24年1月に「青森県獣医師職員確保プラン」を策定し、将来にわたり県獣医師職員を安定的に確保するため、インターンシップの開催や中学・高校への出前講座、獣医系大学生への修学資金の給付などの確保対策に取り組んでいます。



獣医系大学生への職務紹介

### (3) 飼料用米を有効活用するための新たな取組

十和田市の肉用牛農家では、コスト低減のため、乾燥が不要で屋外保管が可能な稲ソフトグレインサイレージ(稲SGS)の生産に取り組んでいます。稲SGSは、飼料用米を粉砕・発酵させるため消化性や嗜好性に優れるなど、飼料用米を有効活用するための新たな取組として注目されています。



稲SGS

#### (4) キャトルセンター整備による肉用牛増頭の取組

三八地域では、五戸町営ブドロク放牧場を核とした肉用牛の地域一貫生産を推進するため、畜産担い手育成総合整備事業を活用して草地造成や周年預託施設（キャトルセンター）、堆肥舎等を新たに整備し、地域内一貫生産に取り組んでいます。



ブドロク放牧場



周年預託施設

#### (5) 県産畜産物の放射性物質検査の実施

県では、県内でと畜されるすべての県産牛のほか、県内2か所の集乳場所の原乳や、県内4地域の牧草について放射性物質の検査を行い、安全性を確認しています。



牛肉の放射性物質検査



検査用原乳の採取

#### (6) 県産畜産物の消費拡大対策

県では、県産畜産物を県内消費者にPRするため、県内畜産関係団体の協力のもと、公益社団法人青森県観光連盟が主催する「あおもりたまごかけごはんまつり」と共催して「あおもり大畜産まつり」を開催し、販路・消費拡大に取り組みました。



あおもり大畜産まつり